

第1回「地域フォーラム」概要

開催テーマ 「誰もが健やかに暮らせる地域づくり」

日時 平成30年6月23日(土) 10時00分～12時00分

会場 高取町リベルテホール

取組説明	荒井奈良県知事
	<p>ベッドタウンとして発展してきた奈良県では、人口減少や高齢化が急速に進んでいます。このような状況の中、どのような人口構造になっても健康に暮らすことを目標に、奈良県では健康寿命日本一を目指して、健康、医療、介護分野の計画を連動させた取組を推進しています。</p> <p>健康分野では、バランスの良い食事、適度な運動、適切な社会行動の3種類の健康行動を促進しています。バランスの良い食事に関する取組では、学校・病院・介護施設等の給食等で県産食材を活用した「美味しい食事」を提供する仕組みの構築を目指しています。適度な運動に関する取組では、県内全市町村で総合型地域スポーツクラブが設置されました。また、まほろば健康パークの機能強化、馬見丘陵公園の賑わい創出等、運動環境の整備を推進しています。適切な社会活動に関する取組では、健康ステーションを設置し、おでかけ健康法の普及に努めています。</p> <p>医療・介護分野では、医療提供体制の整備を進めており、がん死亡率全国一低い県を目指した取組、救急搬送受入体制の改善、県立病院の再編整備、地域包括ケアシステムの構築等に取り組んでいます。</p> <p>今後も、健康に、幸せに暮らすという大きな目標に向かって、「誰もが健やかに暮らせる地域づくり」を県内の市町村と協働しながら積極的に行っていきたいと考えています。</p>

取組説明	森下橿原市長
	<p>橿原市では、運動習慣のある人の割合が高いですが、現在、ウォーキング習慣を広める取組を実施しています。</p> <p>平成18年度から、毎月、ウォーキング教室を開催しており、平成29年度には延べ953名が参加しています。さらに平成27年度からは、商業施設でも実施しています。また、ウォーキングアプリの導入や、千塚古墳群公園内でのウォーキングルートの設置等の取組を実施しています。</p> <p>ウォーキングは健康寿命の延伸効果が期待できるため、今後もこれらの取組を推進していきたいと思えます。</p>

取組説明	植村高取町長
	<p>高取町では、高齢化が進む現状を受け、元気な高齢者が増えていくような仕掛けを進めています。</p> <p>特に力を入れているのが誰でもできる「いきいき百歳体操」の導入です。平成28年度から、この体操を高齢者に推奨する活動を行っています。この体操は身体面だけでなく、</p>

地域の交流が深まるなど、二次的な効果もあります。

この活動を行うに当たり、運営等は住民の自主性を尊重し、自立的な拡大を目指しています。

今後は、開催地域を拡大し、ともに支え合い、安心して暮らせる高取町を目指します。

取組説明	森川明日香村長
<p>明日香村では、平成 25 年に総合型地域スポーツクラブが発足し、平成 29 年に NPO 法人化されています。幅広い世代の住民の方々に楽しく参加いただいております、その成果もあってか、近年、女性の平均自立期間が延びてきています。</p> <p>一方で、死亡比が高い女性の乳がんや男性の大腸がんの検診強化を検討し、早期発見に努めています。また、介護要因として高血圧症や関節疾患が高い比率となっており、フレイル（身体機能や認知機能が低下して虚弱となった状態）予防が効果的であることを踏まえ、地域での取組を実践しています。</p>	

コメント	荒井奈良県知事
<p>本日の皆様の話をお聞きし、さまざまな数値を拝見する中で、行政と住民の双方が運動に対する意識を持てば、その地域は元気になるという実感を持ちました。</p> <p>また、本日のような機会を活用し、健康長寿の新たな取組がさまざまな形で横展開されることを願っています。</p>	

質疑応答①	健康寿命日本一を目指すに当たり、奈良県が特に力を入れて取り組んでいることは何ですか。また、森下市長はお医者さんと聞いていますが、お医者さんの目から見た長寿の秘訣は何ですか。（橿原市在住者）
<p>（森下橿原市長）</p> <p>病気を持っている方は病気を意識し、健康な方はどのようにこれからも健康な状態を維持していくかを意識するなど、各個人が意識を高めることが大切だと思います。</p> <p>（荒井奈良県知事）</p> <p>健康寿命全国 1 位の長野県の事例を参考に、県としての目標を設定していますが、健康分野では何と言っても健康行動を生活習慣にしていこうということです。健康行動の他にも、今後は糖尿病性腎症、高血圧、自殺の三つをターゲットにして取組を検討したいと考えています。</p>	

<p>質疑応答②</p>	<p>高取町が見守り電話サービスを始めたと聞きました。どのような内容ですか。</p> <p>また、県では一人暮らしの高齢者のために取り組んでいることはありますか。(高取町在住者)</p>
<p>(植村高取町長)</p> <p>高取町と郵便局が連携したシステムで、県内では高取町が初めて導入しました。指定された時間に、コールセンターから高齢者の方々に健康状態を確認する連絡をし、その回答をあらかじめ登録した連絡先へ通知するというものです。5月からスタートしたところで、今いろいろな形でPRしています。</p> <p>(荒井奈良県知事)</p> <p>一つは、地域とのつながりを持つため、特に男性に地域の社会的な活動に参画してもらおうと良いと思います。もう一つは、脱マイカーです。高齢者にとっては、買い物が一番大変だと思いますが、マイカーで行かなくても、歩いて行けるようなところにミニスーパーや臨時スーパーがあるようなイメージのまちづくりを試行できたらと思います。</p>	

<p>質疑応答③</p>	<p>健康であるためには運動を継続することが大切だと思います。運動を継続できるような取組があれば教えてください。</p> <p>また、県で各市町村、各機関と連携して行っている事業はありますか。(明日香村在住者)</p>
<p>(森川明日香村長)</p> <p>先ほど紹介しました総合型地域スポーツクラブに参加いただき、さまざまなスポーツを通して地域の方々と交流しながら楽しくスポーツすることが、運動を継続することにつながるのではないかと思います。</p> <p>また、農業をしている人は健康な人が多く、健康維持につながるのではないかと思います。</p> <p>(荒井奈良県知事)</p> <p>健康に良いということから農業をされる方もいます。県では、農業と福祉の連携を進めていますが、高齢者と農業を結びつけるということも考えられると思います。</p> <p>また、奈良県は運動施設が少ないので、運動施設をつくるということも大きな課題であると思います。</p>	

<当日回答できなかった質問に対する回答>

質問①	県民や住民の健康づくりについて、県や市町村は、被用者保険制度と、どのような連携を行えば良いとお考えでしょうか。(大和郡山市在住者)
<p>県としては、健康寿命日本一を目指すためには、生涯を通じた健康づくりを推進する必要があると考えています。少年期は主に学校における取組、老年期は高齢者対策、介護保険等における取組が活発に実施されているところですが、青年期、壮年期いわゆる働き盛り世代については、行政の手が届きづらいところであり、被用者保険者との連携がキーポイントになると考えています。</p> <p>これまでの連携内容としては、健診（検診）の受診勧奨をはじめ健康行動の実践に向けた取組、生活習慣病予防等の健康全般に関する学習や啓発等を行って参りました。今後もこれらの取組を継続して行うとともに、県民の健康状態を把握するため、被用者保険者が保有する健診・医療情報データを分析し、その情報を基にした効果的な健康づくりのための取組を保険者と連携し、検討していきたいと考えています。</p>	

質問②	人口減少、税収減の社会状況での、奈良県の社会保障のあり方とはどのように考えていますか。(河合町在住者)
<p>県民の皆さんが安心して暮らしていくために社会保障制度は大変重要な仕組みですが、少子高齢化の進行とともに毎年の財政負担が大幅に増加しており、その持続可能性が大きな課題となっています。この制度を安定運営し、今後も引き続き真に支援が必要な人に適切な支援を提供していくためには、社会・経済情勢の変化に応じて不断の見直しを行っていく必要があります。</p> <p>県の取組の一部をご紹介しますと、これまで市町村単位で運営されていた国民健康保険について、今年度から県が財政運営の責任者として参画し、高額医療費などの多様な財政リスクを市町村単位でなく県全体で分散する県単位化に取り組んでいます。また、介護保険制度では、市町村毎に格差が生じている介護給付の適正化や介護予防の取組の積極的推進に市町村とともに取り組んでいます。</p>	